

初めまして。私は経済学部2年のガクジェハン、と申します。私は今日、私がまだ中学生だった頃に挑んでいたことについて話したいと思っています。それは、バスケットボール選手になることへの挑戦です。

バスケットボールと聞いた途端、皆さんの頭には様々なイメージが思い浮かんだと思います。小学校5年生の時の私の頭に思い浮かんだのは、「日本のあるアニメ」でした。その時の韓国には、スラムダンクというアニメがすごく流行っていて、私もそのアニメが大好きでした。それで、当時既に身長が170cmに近かった私は、それを活かしてバスケットボールをしてみようと決心しました。

小学校5年生で、バスケットボールのチームに入ったとき、私に任されたポジションはセンターでした。

センターは、高い身長と強い力を必要とするポジションです。その強い力を得るために、私は地獄のような訓練の日々を送ることになりました。

走り回され、疲れはてていた中学校2年生のある日、私は実力を認められ、韓国で開かれた日中韓中学生バスケットボール大会に、韓国代表として参加するという名誉を得ました。しかしその大会で、私はここ、膝に怪我をしてみました。病院でお医者さんに告げられたのは「最低でも2年間は激しい運動はできない」ということでした。最初はどうしても納得がいかず、無理やり運動を続けようとしていましたが、その度後ろで両親は心を痛めていました。その姿を見て「私にはもう運動はできない」と、そう痛感したのです。

友達にこの話をすると、皆私を慰めようとします。「バスケに費やした時間は無駄になったけど、今までよく頑張ったね」と。でも私はそう思いません。確かにバスケの「技」はほぼ活かせなくなりましたが、その技を得るために、自分の限界を乗り越えてきた精神力は、未だ私を支えてくれています。その精神力がなかったら、私はここまで来られなかったことでしょう。

私は、何かに挑戦するとき、成功か失敗かという結果ももちろん重要ですが、それよりその挑戦を通じて自分が得たのは何か、それこそが重要であって、それこそが挑戦の真の価値だと思います。ですから私は今からも失敗を恐れず、様々なことに挑戦していきたいと思っています。

今までご清聴ありがとうございました。